

<書 評>

日本義肢装具研究会（編）

脳卒中片麻痺者の下肢装具

横山 巖（七沢病院）

リハビリテーション医学が導入されて以来、脳卒中片麻痺の歩行機能の回復に最も大きな影響力をもつものとして、東西の両横綱をあげれば、一つは健側筋力の保持・増強であり、他の一つは下肢装具であるといえよう。

本書を手にしたとき「脳卒中片麻痺の下肢装具」とは随分、的を小さくしぼったものだ、と最初は思ったけれども、しかし、脳卒中片麻痺における下肢装具の重要性を考えると、的は決して小さ過ぎはしない、まことに適切な企画であると感じた次第である。

本書から、下肢装具の処方に関するノウハウを得たいと思えば、第4章を読めば足りるが、この章を中心として、まず、第1章では脳卒中片

麻痺の障害学と題して、共同運動、連合運動、姿勢反射、立ち直り反応、平衡反応、その他の各種徴候、片麻痺の回復過程等が述べられ、第2章では脳卒中片麻痺者の下肢装具の動向として、昭和54年度に全国的規模で行われた調査の結果が紹介され、第3章では下肢装具の生体工学的検討が記載され、第5章では脳卒中のリハビリテーションプログラムの概説と、その中で下肢装具の占める位置が述べられ、第6章では退院後の下肢装具の使用状況の follow-up について記されている。そして第7、8、9章ではプラスチック装具のデザイン、製作、耐久性について詳述されている。

本書は脳卒中片麻痺の下肢装具に関するまことに懇切丁寧な参考書で

あるといえよう。ひと言、印刷上の苦情を言わせていただくと、各章下の大項目と小項目とで同じ算用数字が用いられているのが大変気になった。大項目にはローマ数字でも用いた方が読者にとっては読みやすいのではなかろうか。

本書は日本義肢装具研究会で行われたセミナーの内容を基幹としてまとめられた本であるとのことであるが、下肢装具に関する情報が脳卒中片麻痺のリハビリテーションを含めて、幅広く集められている所に大きな特色がある。

わが国においても、片麻痺の下肢装具について、かなりの量の情報が集積されたものだというのが、本書を読んだのいつわらざる感慨である。

本書は脳卒中のリハビリテーションに携わる医師にとって、下肢装具の極めて有益な参考書であるといえよう。

（B5，頁130，1982，¥3,900，医歯薬出版刊）